

私らしく あなたらしく 一人ひとりが輝く社会へ

はあもにい1

【熊本市男女共同参画情報誌】

特集

「男だから」？ 「女だから」？
その言動にモヤモヤしませんか



○報告

・「男性学の視点から 誰もが生きやすい社会を考える」男女共同参画週間記念講演会

○お知らせ

・女性のためのつながるマルシェ／女性人材リスト登録者募集

○講座レポート

第9期ウィメンズカレッジ／ユニバーサルマナー検定3級資格取得講座／
市民グループ企画「食を楽しむ味噌玉づくり」

○講座・イベントスケジュール

「男だから」？ 「女だから」？ その言動にモヤモヤしませんか

「女性ならではの気配り」「男なら泣くな」などの言葉には、「女性はあるべき」「男だからこう」といった、性別に関する固定的な意識が潜んでいるのではないのでしょうか。今回の特集では、ジェンダー(※1)に関する言葉や行動、その裏に潜む意識について考えました。

※1 ジェンダー(gender)・・・男性と女性の生物学的性差(sex)とは別に、社会的文化的につくられてきた性差のこと

「こうあるべき」なの？



はあもにい通信2019.10月号「男と女の△劇場」(画/ブノ絵巴)から

一人一人の意識を アップデートしよう!

「女だから...」「男だから...」という言動に対して、モヤッとしたことはありませんか？

内閣府「令和3年度性別による無意識の思い込み(アンコンシャス・バイアス)に関する調査研究」(※2)によると、「男性は仕事をして家計を支えるべきだ」「女性は感情的になりやすい」などの項目について、「直接言われた経験」「言動や態度から感じた経験」が男女ともに上位に挙がっています。

性別に対する無意識の偏見や固定的な役割分担意識から発せられる言葉や行動で、気付かないうちに誰かを不快にさせたり、傷付けたりする可能性があります。近年では、情報を発信する側が注意するべき、ジェンダーに関する表現のガイドラインや書籍などが出されました。

この特集がこれまで気付いていなかった自分自身の思い込みや偏見を見直し、意識をアップデートする機会になればと思います。

※2 対象:全国男女20～60代 10330人(男性5069人、女性5165人、その他96人)

私たちこんな言動に

モヤッとししました！

性別や年代、国籍もさまざまな4人が集まり座談会を開催。ジェンダー表現についてモヤッした体験談を話したり、意見を交わしたりする中で、それぞれの「当たり前」について考えました。



本田由紀さん(41)

会社経営。小学生、中学生、高校生の娘と暮らす。会社員時代「子どもがいるから飲み会は難しいよね」と言われ、モヤッとしたことがある。



ドーズウェル・マットさん(20)

大学生。留学のためイギリスから来熊。日本のTV番組で、男女で出演者の扱いに差があることに違和感を覚えている。



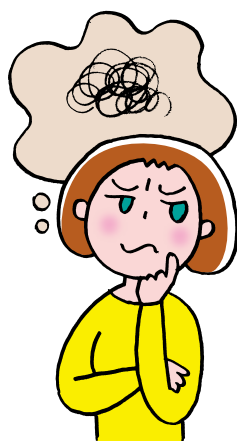
中津海麻紀さん(43)

はあもにい編集員。小学生、5歳の息子の子育て中。夫と不動産会社に行った際、営業担当者が夫にだけ名刺を渡したことにモヤッした経験がある。



山口達也さん(61)

はあもにい編集員。パート勤務。妻と2人暮らし。周りから「男性なのに」と思われそうで、好きな赤色のシャツを着られないことがある。



「母親だから飲み会は無理」は
氣遣い？ 無意識の偏見？

「これまでモヤッとした「性別への思い込みによる言動」はありますか。」

山口 フルタイムの仕事で退職後、家事を妻と分担しています。妻から「庭仕事は男の仕事だからやって」と言われたことがあり、「男の仕事」は余計かなと感じました。

本田 わが家は娘が3人いるのですが、三女が「女の子だからピンクがいい」と言ったのでびつくりしました。本人がピンクを好きならまだしも、一体何が影響して「ピンク＝女の子の色」と思い込んだのか…。

中津海 以前、夫と不動産会社に行った際、営業の担当者から夫にだけ名刺を渡され、商談に入りました。あくま

で夫主導で妻は添え物のように思えました。帰宅後、夫に不満を言っても夫は「そつだったっけ？」の一言。当事者じゃないと気付きにくいものなのではないでしょうか。

マット 日本では、一部の人が「O」と女性だけを特化した表現を使っていることに驚きました。テレビを観ていても、男性の有識者主導で、女性コメントーターは相づちを打つだけのケースが目立ちます。イギリスの番組は女性も男性も対等にコメントしています。

中津海 以前と比べると日本も「男女平等」を意識するようになってきたと感じますが、ヨーロッパ出身の方から見るとまだまだということですね。

「お互いの体験談を聞いてどう思いますか。」

山口 中津海さんがおっしゃったように、言われた当事者じゃないとその言葉の裏にある「無意識の偏見」に気付きにくいと思います。それから当事者の受け止め方によっても言葉の印象は大きく変わるのではないのでしょうか。

本田 以前勤めていた会社で「子どもがいるので飲み会は難しいでしょ」と言われ、「子育ては女性の仕事」と決めつけられた感じがしました。しかし今思えば、相手は気を遣って言ったつもりだったのかも。

中津海 私だったら氣遣いと捉えるかもしれません。夜の外出となると夫に子どもをお願いできるかなど、確認の手間もありますし。ただ、昔も今も「夜の外出は無理でしょうか」という質問はあまり男性にはされない気がします。

マット 父親が仕事後すぐに家に帰ってこない、子どもが寂しい思いをするのではないかと思います。

本田 日本だとそれが「母親だったから、より子どもがかわいそう」と思われてしまいそうですね。

相手との関係性を気にして
表現への指摘をためらうことも

「主人」「奥さん」など、パートナーの呼び方について思うことはありますか。

本田 周りの女性が自分の夫を「旦那」と言うのにとっても違和感がありますが、よその家庭のことなので指摘しづらいです。

中津海 相手との関係性も考えると「旦那や主人じゃなくて夫だよ」なんて、言



それぞれの経験談に共感する座談会メンバー

葉狩りのようなまねはしたくないです
よね。相手の配偶者に対する「主人」
「奥さん」という表現にも男尊女卑だっ
た古い時代背景を感じます。

マツ イギリスの学校では、独身女
性の場合は「ミス〇〇」、既婚の場合は
「ミセス〇〇」と呼び方が変わりますが、
男性は独身でも既婚でも「ミスター」で
す。やはり「平等だ」という声は上が
っています。また変わっていません。
山口 結婚後の改姓についても日本
では夫の姓に合わせるケースがほとん
どです。女性の姓に合わせてもいい
はずなのに「男性に合わせてるのが当たり
前」という社会になっている気がしま
す。

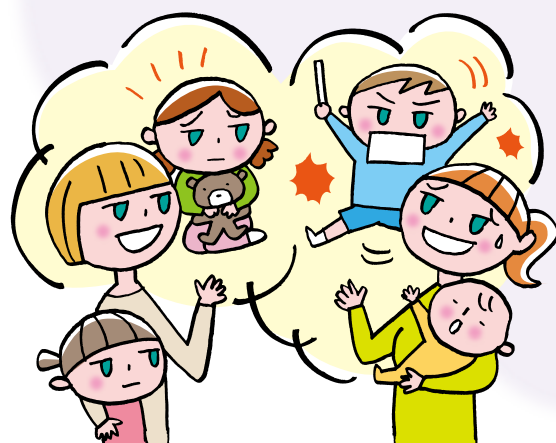
「女性弱い存在」？

絵本からも形成される性差別

子どもへのジェンダー表現について
気になったことはありませんか。

中津海 よくママ同士で「男の子はやん
ちゃで、女の子はおとなしい」という会
話をします。それは子どもに身近な絵
本に描かれる男の子像や女の子像が影
響を与えている気はします。例えば、
お姫さまが王子さまに助けられて幸せ
に暮らすというストーリーは多々あり
ますが、それが「女性がか弱い存在」と
いう一つの刷り込みになるといいま
せんか。

本田 昔話だと、女性のみが敬語を使
ったり、自分の意思に関係なく求婚を
受け入れたり。子どものうちから「女性



は下の立場」などと決め付けられそ
うですよ。

山口 本田さんから「娘が『女の子だか
らピンクがいい』と言った」とお話があ
りましたが、私は赤が好きなんです。赤
色のシャツを着て外出するときに「男
のに赤？」と思われるんじゃないか」と周
囲の目が気になることもあります。

マツ イギリスでもピンクが好きな
女性が多いです。企業の宣伝などで「女
性IIピンク」と結び付けられてしまっ
ていると思います。未来を生きる子ど
もたちのためにも、自分の好きな色や興
味のあることを、性別で制限されない
社会にしていきたいですね。

「男らしさ」「女らしさ」といった刷り
込みが無意識に言動に表れるようす
ね。今回の座談会で気付いたことを聞
かせてください。

本田 生きている中で、いろいろな刷
り込みがあることに気付かされました。
表現が正しいかどうかではなく、自分
の中の当たり前を疑うことが大切で
すね。

山口 当然として使っていた表現や言
葉を、時代の流れとともに不必要だ
とか不快だと捉える人が増えたのだと思
っています。そんな役割を終えた言葉
を認識することで時代に沿った新しい
言葉が誕生するのではないしょうか。

中津海 悪気がなくても、固定観念を
押しついたり、相手を傷つけたりする
言葉があるのだと理解できました。

マツ 社会が変わるまでに長い時間
が必要ですが、自分の発する言葉に性
別への思い込みがないか気付き、変換
していくことが誰もが生きやすい社会
をつくる一歩になると思います。



座談会を終えた皆さん。「自分の中にも刷り込みがあることに
気付き、今後は意識して変えていきたい」と話していました

座談会で出たジェンダー表現の例(行動も含む)

ジェンダー 表現や行動	暗に伝わる メッセージ
・相手の夫にだけ名刺を渡し、夫とだけやり取りする ・テレビで男性の専門家が意見を言い、女性が相づちを打つ	・男性は女性より力がある／男性より女性がか弱い存在
・「女の子だからピンクがいい」 ・男性で赤が好きだけど、外で着るのが恥ずかしい	・赤やピンクは女性が好む色
・「お母さんだから、夜は外に出られないよね」	・子育ては母親の役割 ・立場を気遣う発言と捉えられることもある
・（身だしなみが整っていない既婚男性を見て）「奥さんはアイロンの掛けてくれないの？」	・夫の身だしなみを整えるのは妻の役割

身近な表現に疑問を持ち 小さなことでも声にして

座談会で、「気になる表現を指摘するべきか」といった疑問や「自分の中の当たり前を疑うことが大事」などの気付きが得られました。男女共同参画の視点から、メッセージを発する際に一人一人が意識しておきたいことを熊本大学名誉教授・鈴木桂樹さんにうかがいました。

話を聞いた人 熊本大学名誉教授 鈴木桂樹さん

熊本県、市の男女共同参画審議会などの会長を歴任。はあもにいの地域リーダー育成や男性向け講座などの講師も務める。令和4年度男女共同参画社会づくり功労者内閣総理大臣表彰受賞。



① 自分の表現に気を付ける

人は誰もが「無意識の思い込み」を持っています。たとえば褒めているつもりでも、相手の生き方を縛ったり、誰かを傷つけたたりすることもあります。まずは自分が無意識な思い込みを持っていないか気付く、言動に表れていないかを意識するといいですね。



② 声を上げることを諦めない

相手の表現に疑問を持って、指摘や訂正するかは相手との関係性にもよると思います。

③ みんなで知恵を絞ろう

これまで使っていた言葉が現代には何だかしっくりこなくなることも。そんなときは新しい言葉を作るために、家族や友人同士との会話で、今の時代に合うものはどんなフレーズか知恵を出し合ってみては。結論は出なくても、意見を交わすことが大切だと思います。

はあもに講座紹介

熊本市男女共同参画センターはあもにでは、男女共同参画社会の実現を目指して、さまざまな講座・イベントを行っています。

男女共同参画基礎講座

「絵本の中のジェンダー ～心をはぐくむ絵本の世界～(仮)」

絵本を通して「ジェンダーとは何か?」を学ぶ、また、「子どもたちの“その子らしさ”や“多様性”」を大切に育む機会となる講座を実施します。

日時:2023年2月25日(土) 10:00～12:00(予定)

会場:ZOOMによるオンライン開催

参加者:一般

(主に保育者、教育者など子どもに携わる方、保護者)

講師:東條知美氏(絵本コーディネーター)

費用:無料

申込:2023年1月5日～受付開始

問:☎096-345-2550(同センター)



特集の取材を終えて

最も印象に残ったのは山口さんの「役割を終えた言葉」という表現です。ジェンダーに関する言葉を自分が言われるとモヤモヤする場合がありますが、逆に自分が「役割を終えた言葉」を使っていないか気付きたいと思いました。

中津海 麻紀 編集員



皆さんの体験談や意見を聞いて、似たような体験を思い出したり、自分にはない視点に気づかされたりしました。対話をして問題を共有し、調和点を見つけることが大事だと感じました。家庭内では“モヤッ”とした時に話し合う、職場では言葉や気になる点について話し合いの場を定期的に設けるなどして、自分の言葉や無意識の偏見を見直す機会を持つべきだと思います。

徳永 邦子 編集員



それぞれの時代を背景に社会規範が形成されるので、世代が違えば使う言葉も違ってきます。誰もが生きやすい社会をつくるため、不快な言葉や不必要な言葉を世代や国境を超えて共有したいです。

山口 達也 編集員



“ジェンダー表現に対する違和感を覚えた時の対応”として、その場の状況に応じてまずは会話にしてみるよう心がけたいと思いました。伝わるか伝わらないかも含めて、尝试することで大切な気付きもあると知りました。不満に思ったり、批判的になったりするより、一歩踏み出す(口に出す)勇気を持ちたいと思いました。

池田 恵美 編集員(鈴木氏の取材を担当)



ご意見募集中

今回の特集『男だから?』『女だから? その言動にモヤモヤしませんか?』について、あなたのご意見・ご感想をお聞かせください。

〒860-8601

熊本市中央区手取本町1-1 熊本市男女共同参画課

☎danjokyoudou@city.kumamoto.lg.jp FAX096-351-2030

01



失敗しないための ジェンダー表現 ガイドブック

新聞労連ジェンダー表現
ガイドブック編集チーム / 著
小学館 / 発行

現役記者・ジャーナリストの反省から 「気付き」を得る

「男女で分ける必要、ありますか」「無意識に排除していませんか」「美しすぎる〇〇がだめな理由」…この本では、メディアで問題となった過去の事例を基に、ジェンダーに関する表現について考えます。メディア業界の意思決定層に女性が少ないという構造的な課題にも着目。大切なのは、なぜこの表現がだめなのか、背後に潜む構造や問題を知ること。具体事例をもとに、理解を深めながら新しい表現を模索するきっかけになりそうです。

※紹介した本は、はあもにい1階情報資料室で貸し出しできます。

テーマ ジェンダーの 視点で見る表現

02



ジェンダーはビジネスの 新教養である 炎上しない 企業情報発信

治部れんげ / 著
日本経済新聞出版社 / 発行

「悪気はなかった…」では もう済まされない

「わたし作る人、ボク食べる人」— 1970年代以降、企業広告が問題視されたりSNSなどで炎上した事例に共通する組織の課題がある、と著者。一方で、成功をおさめているディズニー・プリンセス映画の好事例について紹介。今の時代に必要な情報発信、企画の立て方、対応の仕方などをジェンダーの観点から学べます。誰もが発信する時代だからこそ、経営者や広報担当者だけにとどまらず、一般ビジネス教養として読んでおきたい一冊です。

はあもにい 施設 ご利用案内

開館時間

ホール・研修室など貸室 9:00～21:30
施設予約受付・情報資料室 9:00～19:00

休館日

第2・4月曜日(ただし祝日の場合は翌日)、
12月29日～翌年1月3日

無線LANを完備した部屋

研修室 AとB、2室連結しての利用も可

研修室は、A・B・Cの3室あり、定員各36人。小規模のセミナーや会議利用に適しています。AとBには無線LANを設置。間仕切りの壁を外して、ひと続き(72席)にすると、ワイヤレスマイク(1本無料)、有線マイク(2本まで。有料)が使用でき、講演会なども実施できます。



料金	午前 (9:00～12:00)	午後 (13:00～17:00)	夜間 (18:00～21:30)
	2,000円	2,700円	3,200円

会議室 本格的な会議、セミナー利用に

円卓のテーブル(備え付け)、マイク付きの司会台を備えた本格的な会議室です。ワイヤレスマイク(1本無料)、有線マイク(5本まで。有料)を追加することで、より広い用途でご利用いただけます。収容人数50人(円卓着席数26、補助座席24)。



料金	午前 (9:00～12:00)	午後 (13:00～17:00)	夜間 (18:00～21:30)
	3,700円	4,900円	5,800円

※表記した使用料金は基本料金です。入場料を徴収するなど商業活動を目的とした使用の場合は、加算対象になります。

「男性学の視点から 誰もが生きやすい 社会を考える」

6月23～29日の男女共同参画週間に合わせて熊本市と熊本県弁護士会は例年、記念講演会を開催。今年度は、大妻女子大学人間関係学部准教授の田中俊之さんの講演を、6月23日から申込者のみに配信しました。男性が男性であるがゆえに抱えている課題をもとに、私たちがこれから目指したい、誰もが生きやすい社会のあり方についてお話いただきました。

田中 俊之さん

1975年、東京都生まれ。博士(社会学)。大妻女子大学人間関係学部准教授。主な研究分野は男性学。「日本では“男”と“働く”ことの結びつきがあまりにも強すぎる」と警鐘を鳴らす。著書『男性学の新展開』青弓社、『男がつらいよー絶望の時代の希望の男性学』KADOKAWA、『〈40男〉はなぜ嫌われるか』イースト新書など。



令和4年度「男女共同参画週間」キャッチフレーズ

『『あなたらしい』を築く、『あたらしい』社会へ』

男性のイメージが与える 影響に気付いて

「男性学」とは、男性が男性であるがゆえに抱える悩みや葛藤を対象にした学問です。男性の抱える一番の問題は「働き過ぎ」。男性学が登場した1980年代後半からずっと問題視されているのに、改善されないのはなぜでしょうか。

その理由の一つに日本の男女間における賃金格差があります。「男性が働いた方がお金がたくさん稼げて得」と認識されているのです。職場に女性と男性の待遇に差があることで、かえって男性の働き過ぎが止められなくなっているといえます。

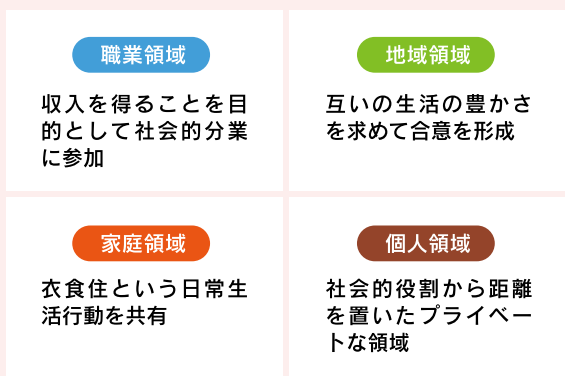
また、女性より男性の方が自殺死亡率が高いというデータがあります。男性は辛くても誰かに相談するなんて男らしくないと一人で抱え込んでしまいがちなのが関係しているでしょう。世間が持つ「男らしさ」が男性の言動や人生に大きな影響を与えるのです。こうした、男らしさによる影響に男性自身が気付くことで、女性が社会で置かれていた状況を想像できるようになり、ひいては男性が男女共同参画を当事者問題として考えるための第一歩になります。

「社会人」とは何か

「社会人」という日本語は、フルタイムで働く人を連想する言葉ですが、社会は職業の領域だけではありません。

ん(図)。誰もが生きやすい社会を築く上で、職業・地域・家庭・個人それぞれに自分の居場所がある人を「社会人」と呼ぶ方がいいでしょう。

定年後、「元〇〇勤務で、△△(役職)をしていた〇〇です」と自己紹介をする人がいますが、これは職場で貯めたポイントを、地域で使おうとしているようなもの。仕事を頑張ったからといって、他の場面で通用するとは限りません。だからこそ、複数の領域に関わることが大切です。



(図) 社会の領域

現代日本人の 寛容さに潜む無関心

結婚することが当たり前だった1970年代。30年かけ「結婚は個人の自由」という認識が高まり、子育てについても「必ずしも子を持たなくてもいい」と考える人が増えています。

一見、多様性が認められる寛容な社会に変化してきているように感じられますが、実はそうとも言い切れないと思っています。

前述の考えの中には「自分は結婚して子どもも欲しいが、他人は『自由に』という無関心さ(消極的寛容)が潜んでいる可能性があるのです。誰もが生きやすい社会と個人の無関心は真逆の方向性です。無関心こそが最大の社会問題ともいえます。

相手とじっくりと対話しよう

日本の男女不平等社会をいきなり平等に変えるのは難しい。しかし大切なのは、「俺を尊敬しろ、お前が変われではなく、一人一人が「相手を尊敬し、自分も変わろう」という姿勢(積極的寛容)を持つことです。

長時間話をすると、人は相手の信念や価値観をおかしいと思うことが困難になります。人と人がじっくり膝を突き合わせて対話することこそ、互いに認め合う上で最も重要です。またそれができると、誰もが生きやすい社会につながるといえます。

編集員感想

「積極的寛容と消極的寛容」という概念を知り、これまでの考え方が変わりました。「自分には偏見などない」という思いが、実は後者なのではないかと見つめ直すことが、実際の行動を決める鍵になると思いました。

(編集員 池田恵美)

「女性のためのつながるマルシェ」を 開催します！



マルシェを楽しみながら、無料相談してみませんか

熊本市は、新型コロナウイルス感染拡大による望まない孤独・孤立などで不安を抱える女性を対象に、相談につなげるための居場所づくりとしてマルシェを開催します。女性の多様な悩みに応えるための相談ブースを設置。健康、育児、就労についてなど、どこに相談してよいか分からない…という方も、この機会に相談してみませんか。

また当日は、さまざまなワークショップが行われる他、必要な方へ生理用品の配布も行います。お気軽にお越しください。



日時 2月12日(日)11時～19時まで

場所 熊本城ホール 2F エントランスロビー

内容 ワークショップ、無料相談、生理用品提供など

主催 熊本市男女共同参画課



昨年の様子

アンケートにご協力ください

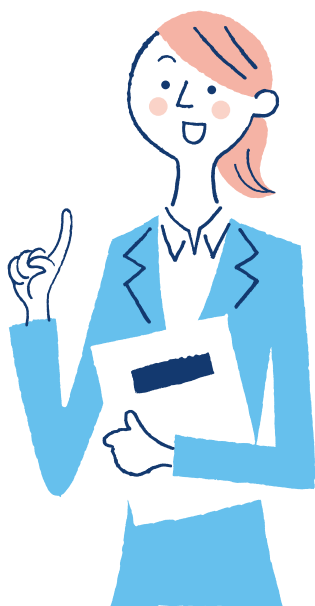
このアンケートは、熊本市の今後の取り組みのため、女性の状況や困り感をお聞きするものです。ぜひ多くの皆さまのご協力をお願いします。



対象 10代以上の女性(熊本市民)

アンケート実施時間 ～2月15日(水)まで

女性人材リスト 登録者募集



熊本市は、誰もが平等に社会参画し、個性と能力を十分に発揮できる豊かで活力ある社会を目指しています。しかし女性の参画が不十分な現状があります。そこで、より多くの女性に政策・方針を決める過程へ参画していただくことを目的に、「熊本市女性人材リスト」を作成しています。

この人材情報は、熊本市の審議会等の委員への登用や講演会等の講師選定の際に活用されます。積極的なご応募をお待ちしています。

応募資格

18歳以上の熊本市民で、専門知識をお持ちの方、国家資格を有する方、公的機関における審議会等への就任実績がある方、講演会活動・執筆活動等の実績がある方、勤務先や各団体で社会活動やボランティア活動をしている方、市政や地域の発展に熱意を持って貢献できる方など

募集期間

随時

申し込み方法

「女性人材リスト登録票」をメールまたは郵送でご提出ください。登録票は、男女共同参画課にて配布またはホームページからダウンロードできます。



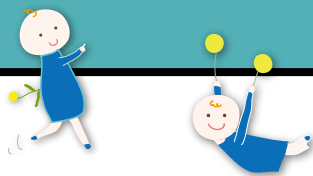


はあもにい 講座・イベント

Report

HARMONY

はあもにいでは、男女共同参画社会の実現に向けた講座や講演会、イベントを開催しています。令和4年度春から夏までに行われた主なものを紹介します。



政策・方針決定の場に参画し、地域や職場のリーダーとして活躍する女性人材の発掘と育成を目的に開催している「はあもにいウィメンズカレッジ」。今年も6月11日(土)に受講生21人が参加し、第9期がスタートしました。全10回の講座では、さまざまな分野の講師から、多角的な視点で男女共同参画の現状や課題、多様性や女性の政治参画などについて学びます。

第9期ウィメンズカレッジ開講!



多様な声を社会に

第1回は熊本県立大学総合管理学部教授の澤田道夫さんを講師に、「女性リーダーの役割をテーマに学び、後半はグループワークで意見交換を行いました。講師は、熊本における意思決定の場に女性が少ない現状や人口流出の懸念についてデータを上げ、「女性をはじめ多様な声を社会に生かしていくことが重要」と伝えました。



第1回講師の澤田道夫さん

また後半は、「熊本市の女性審議会委員を増やすには」というテーマでグループワークを実施。「審議会委員になることのメリットを伝え、職場や地域などで理解を促していくことが大事」「女性も参加しやすい時間帯や託児などの工夫がもつと必要なのではなど、さまざまな意見が上がりました。受講後には「そもそも審議会がどういう場なのか、知識が不足していた。関心を持つきっかけになった」「熊本市の女性の力をより一層すばらしいものにしたい」などの声が寄せられました。

違和感を言い続けよう!

第2回は、SDGsの地方創生ファシリテーターの熊野たまみさんによる「SDGsとジェンダー平等」を7月9日(土)に開催。



ゴール5の「ジェンダー平等を実現しよう」について講師は、「日本は特に固定的な文化や慣習、役割がゴール5の実現を阻害している」と、日本の置かれた現状と課題について説明。グループワークでは、受講生それぞれが感じる「違和感」について出し合い「男性が育児や家事をするとなぜもてはやされる?」「学業は長男が優先なぜ?」...と、さまざまな違和感が上がりました。講師は「日常の中で気付くだけでも変わってくる。言い続けることで社会を動かした事例もある。違和感を言い続けましょう」とメッセージを送りました。

受講後は「SDGsとは環境のことばかり考えてしまいうけれど、ジェンダー平等も大事だと改めて気付かされた」「講話に加えグループディスカッションでもさまざまな価値観に触れ、視野が広がり、固定観念に凝り固まっている自分を見つめることができた」などの感想が寄せられました。

来年1月まで講座は続きます。参加者の目的、目標はそれぞれですが、受講生がお互いに刺激を受けながら成長する場となることを期待しています。

ユニバーサルマナー検定3級資格取得講座

「無関心」でも「過剰」でもない 多様な人への適切なアクション



夏休み中の開催だったため全体の約半分が10代となり、小学生の親子も5組参加



自身の経験も合わせてどんな行動や声かけが適切か話す、講師の田中利樹さん

講師は自身も視覚に障がいがある株式会社ミライ口の田中利樹さん。いざ誰かを助けようと思っても、「なんて声をかければいいのか」「何をしてあげればいいのか」と迷うシーンは誰にでもあります。そんなときに「無関心」にも

「ユニバーサルマナー」とは、高齢者や障がい者、ベビーカー利用者、外国人など、多様な人と向き合うためのマインドとアクションのこと。自分とは違う立場の人を思いやり、適切な理解の基、行動する方法を学ぶ講座を、7月30日(土)に実施。31人が参加しました。

参加者からは「障がいのあるなしに関わらず、相手の思いをくみとる大切さも知れました」「たくさんある違いも認め、共に生きていける熊本にしていきたい」などの、これからの行動や意識につながる感想をいただきました。

「過剰」にもならないよう、相手の困り事や心理状況を知り、日常生活や接客時などにおける適切なサポート方法を、座学とワークを交えて学びました。2時間の講習受講後、参加者全員ユニバーサルマナー3級認定書を受け取りました。

家族みんなで健康力UP! 「食」を楽しむ味噌玉作り

～はあもにい市民グループ企画～

大人も子どもも手軽に健康づくりを続けよう



3世代での参加もありました



講師の寺澤希さん



はあもにいでは市民グループの企画を募集・採用し、共催で実施しています。そのうちの一つ「くまもと健やか家庭サポートチーム」の企画「家族みんなで健康力UP! 『食』を楽しむ味噌玉作り」を、7月23日(土)に行い、10組30人が参加しました。

日頃、家族の健康に気を配る役割が誰かに偏っていませんか。この講座は「家族それぞれが健康を意識し、行動しよう」という主旨で開催しました。

みそ玉とは“お手製のインスタントみそ汁”のことです。講座ではみそを丸め、栄養や彩りを考えてカラフルな麩やおさなどでトッピン

グ。参加者は楽しそうにオリジナルのみそ玉を作っていました。

講師の寺澤希さん(HANDMADE発酵主宰)は、元サッカー選手。指導する学生にはスポーツドリンク代わりにみそ汁を飲むよう薦めているそう。「栄養補給や疲労回復にとっても有効」と、みそ玉の日常的な活用方法も教えてくれました。

「小さな子どもでも簡単に作れる」「栄養について勉強になった」という感想のほか、後日「普段は妻の料理が健康につながっていますが、さっそく家族でみそ玉作りに挑戦しました。子どもも気に入って定着しそう」という報告もいただきました。



熊本市男女共同参画センター

はあもにい

令和4年 10月 ▶ 令和5年 2月

講座・イベントスケジュール

📎 学ぶ・スキルアップ 👨👩 親子で楽しむ 🤝 市民協働 👤 男性の仕事以外への参画支援 🎵 市民文化振興

毎月開催	原則毎月第1火曜日 11:00～11:30	👨👩 よんでよんでのかい	季節のテーマを盛り込んだ絵本や紙芝居、ふれあい遊びなどを、親子で楽しみませんか。パパやおじいちゃんおばあちゃんの参加也大歓迎。不定期で「オンラインよんでよんでのかい」も実施中！ 対象：小さいお子さんがいるご家庭 参加：無料 予約：不要
	毎月第3水曜日 10:00～16:00	📎 働き方相談所	ハローワーク職員が月に一度はあもにいに出張し、就業相談を行います。子育て中で再就職を考えている方、転職を考えている方、就業に不安を抱えている方など、お気軽にご相談ください。 予約：要（開催日の8日前まで、一人あたり1時間） 託児：あり（1歳～未就学児まで、無料、10日前まで要予約） 費用：無料
2022 10	10月16日(日) 10:00～16:00	📎 地域づくりや団体運営に役立つ！ 多様な意見を引き出すファシリテーション講座	「私が住む地域」をテーマに話し合いの実践を通して、互いを尊重しあうファシリテーションのスキルアップを目指します。 講師：平田隆之氏（NPO法人市民プロデュース理事長） 対象：対話の手法を学び、スキルアップを図りたい方、自身の住む地域の活性化や課題解決に興味がある方 費用：無料 定員：30人（先着順） ※託児あり、要事前予約 申込：要
	10月22日(土) 13:00～16:30	📎 市民グループ企画「50歳からのわたし～自分らしい生き方・働き方を見つける～」	キャリア人材プラットフォーム主催。「人生100年時代」これまでの常識にとらわれず、生き生きとした人生を実現するために、一步を踏み出してみませんか。 講師：伊井純子氏（キャリア支援デザイナー） 対象：40歳以上の女性 費用：無料 定員：20人（先着順） ※託児あり、要事前予約 申込：要
	10月27日(木) 13:30～15:30	👨👩👤 組織のワーク・ライフ・バランス向上を目指す テレワーク実践と男性育休取得促進セミナー	ワーク・ライフ・バランス推進の背景や取り組むメリットを学び、「テレワーク」「男性育休」を実践している県内企業の事例を聞きます。 進行：伊藤美佳氏（株式会社セレンティビティ代表取締役社長・ワーク・ライフ・バランスコンサルタント）ほか 対象：テレワーク、男性育休などワーク・ライフ・バランス推進を目指す企業の方 費用：無料 定員：30人（先着順） 申込：要 実施方法：オンライン
2022 11	11月12日(土) 13日(日) 10:00～15:30	🤝 はあもにいフェスタ2022	男女共同参画を推進する市民団体とはあもにいとで開催する年に一度のフェスティバル。全館で、記念講演会、ワークショップ、バザーなどを行います。今年のテーマは「～わたしらしく、あなたらしく はあもにいフェスタ2022～ 来て見て発見！ みんなのフェスタでわくわく体験」 費用：一部有料
	11月22日(火) 10:00～12:00	📎 「どうしよう…」「どうこたえる？」 子どもに伝える「性」の話～自分を大切に思う心を育むために～	子どもが性に関するトラブルの当事者にならないよう、保護者や支援者が正しい知識を得て、子育て等に生かすための講座。性にまつわる子どもからの疑問や困りごとへの対応方法など大切な視点を学びます。 講師：NPO法人せいしとらんし 対象：小学生までの子どもを持つ保護者および支援者 費用：無料 定員：20人 申込：要 実施方法：オンライン
2023 1	1月21日(土) 10:00～12:00	📎 いまさら聞けない ビジネスマナー(仮)	ビジネスマナーの基本を学び直し、時世に合った内容へとアップデートする機会を提供する講座。キャリア・スキルアップを目指す方、再就職を目指す方を主な対象として実施。 講師：山本直子氏（株式会社ヒューマン・スパーク） 費用：無料 定員：20人（先着順） ※託児あり、要事前予約 申込：要
2023 2	2月25日(土) 10:00～12:00	📎 男女共同参画基礎講座 「絵本の中のジェンダー～心をはぐくむ絵本の世界～(仮)」	絵本を通して「ジェンダーとは何か？」を学ぶ、また、「子どもたちの“その子らしさ”や“多様性”」を大切に育む機会となる講座を実施します。 講師：東條知美氏（絵本コーディネーター） 会場：ZOOMによるオンライン開催 参加者：一般（主に保育者、教育者など子どもに携わる方、保護者） 申込：2023年1月5日～受付開始 費用：無料
2023 3	3月上旬	📎 第9回ミモザフェスティバル	女性の権利と地位向上のための「国際女性デー」を記念して、「ミモザフェスティバル」の開催を予定。
開催日未定		📎 これからの男性の生き方に関する講座	パラレルキャリアをテーマに、座談会を予定
		📎 再就職準備講座	子育て中の女性を対象とした再就職に関する講座を予定

講座への問い合わせ | 熊本市男女共同参画センターはあもにい ☎096-345-2550 FAX096-345-0373
〒860-0862熊本市中央区黒髪3-3-10 HP <https://www.harmony-mimosa.org> はあもにい 熊本 検索

※講座・イベントは予定です。変更になる場合があります。ご了承ください ※参加・受講には申し込みが必要です。詳しくはお尋ねください

information

男女共同参画課相談室のご案内

熊本市では、下記の相談窓口を開設しています。**相談は無料**、どなたでもご利用いただけます。各相談では、専門の相談員がお話を伺い、秘密は固く守られます。ひとりで悩まずに、お気軽にご相談ください。

	内 容	相談日時	電話番号
専 門 相 談	DV相談 配偶者等からの暴力に関する相談 を相談員がお受けします	電話相談 月～金曜 8:30～17:15	096-328-3322
		メール相談 いつでも可能 ※ただし、回答に1週間 程度かかります	dv_soudan@city. kumamoto.kumamoto.jp
	DV法律相談 DVに関する相談に弁護士がアドバイ スします	面談相談 毎月第2、3木曜 13:00～16:00	面談には予約が必要です 予約専用電話 096-352-2587 (月～金曜 9:00～16:00)
	男女共同参画に 関する法律相談	面談相談 毎月第4木曜 13:00～16:00	

※ご相談は、各区福祉課でもお受けすることができます

＼あなたらしく、わたしらしく／
**はあもにい
FESTA**

来て見て発見！ みんなのフェスタでワクワク体験
2022 11.12(土)・13(日)
男女共同参画を推進する市民グループとはあもにいが協働
で企画・運営します。トークショー、バザー、クイズなど、
楽しい催しがたくさん！（一部有料）ぜひお越しください。



はあもにい
フェスタ
特設サイト



11/12(土)

「わたしらしく、
あなたらしく
生きるために」

性自認に関するさまざまな悩みや葛藤に向き合い、自分らしく生きる道を模索し続けた半生、多様な性について語っていただきます。

出演 KABA.ちゃん(タレント/振付師)

日時 11月12日(土) 13:30～15:00(開場13:00)※予定
会場 はあもにいメインホール(定員 372人(先着順・要申込))
費用 無料 託児 あり(1歳半～未就学児、要予約)
ナビゲーター 江上浩子さん(RKK熊本放送)、
渡辺大輔さん(タレント)
申込 10月5日から電話、下記申し込みフォーム
(HP内にもあり)から受付

11/13(日)

📍メインホール 映画上映会

SING ネクストステージ

日時 11月13日(日) [午前・午後2回上映]
①整理券配布10:00 開場10:30 開演11:00(終演12:50)
②整理券配布13:00 開場13:30 開演14:00(終演15:50)
会場 はあもにいメインホール
定員 各回372人(先着順) 費用 無料 申込 不要



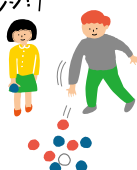
©2021 UNIVERSAL STUDIOS. All Rights Reserved.

ボッチャ体験会

📍多目的ホール 予約不要
日時 11月13日(日)
10:00～15:30
会場 はあもにい多目的ホール
費用 無料
参加方法 当日会場にて受付(先着順)

先着
100名に
参加賞あり

大人も子ども
みんなが
チャレンジ!



協賛: 木村、サントリービレッジソリューション 協力: 一般社団法人Arts and Sports for Everyone

11/12(土)・13(日) 両日開催

市民グループ企画

市民グループが全館で、バザー、ワーク
ショップ、セミナーなどを行います

フェスタクイズ

男女共同参画クイズに挑戦!
参加者にはすてきな景品が
当たります!



申し込み・問い合わせは 熊本市男女共同参画センターはあもにい(中央区黒髪3-3-10)

☎096-345-2550 (9:00～19:00、休館日: 第2・4月曜 祝日の場合は翌日) ホームページ<https://harmony-mimoza.org/>

※実施にあたっては、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、さまざまな対策に取り組んでいます。ただし状況によっては、中止など急な変更なども考えられます。
皆さまのご理解、ご協力をお願いいたします。

発行者 編集・発行 〒860-8601 熊本市中央区手取本町1-1 熊本市文化市民局人権推進部男女共同参画課
〒860-0862 熊本市中央区黒髪3-3-10 熊本市男女共同参画センターはあもにい
市民編集員 池田恵美 徳永邦子 中津海麻紀 山口達也

▶ご意見・ご感想をお寄せください

◎熊本市男女共同参画課 ✉danjokyoudou@city.kumamoto.lg.jp ☎096-328-2262

◎熊本市男女共同参画センターはあもにい ✉info@harmony-mimoza.org ☎096-345-2550

熊本市男女共同参画センターはあもにいの詳しい情報はこちらから

